

# 愛知県環境影響評価審査会会議録

## 1 日時

平成21年1月15日（木）

午前10時から正午まで

## 2 場所

愛知県自治センター 4階 大会議室

## 3 議事

- (1) 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書について
- (2) その他

## 4 出席者

### (1) 委員

成瀬会長、岩田委員、内田委員、梅村委員、岡村委員、岡本委員、黒田委員、小池委員、清水委員、芹沢委員、武田委員、竹中委員、田中委員、長谷川委員、藤江委員、藤原委員、堀越委員、丸山委員、柳澤委員（以上19名）

### (2) 事務局（愛知県）

（環境部）藤井部長、山本技監

（環境活動推進課）伊藤課長、坂井主幹、伊藤主任主査、松尾主査、関本技師、服部技師

（大気環境課）中根主任、森技師

（水地盤環境課）平野主査

（自然環境課）高橋主任、小野島技師

（資源循環推進課）永井主査、戸田主査

### (3) 事業者

（小牧市）仲根課長

（小牧岩倉衛生組合）平岩技監、舟橋課長、後藤係長、岩本主事

## 5 傍聴人等

傍聴人4名、報道関係者1名

## 6 会議内容

### (1) 開会

### (2) 議事

#### ア 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書について

- ・ 会議録の署名について成瀬会長が、芹沢委員と藤江委員を指名した。
- ・ 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書について、別紙1のとおり諮問を受けた。
- ・ 資料1(小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書)及び資料2(小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書に対する意見の概要)について、事務局から説明があった。

#### <質疑応答>

**【堀越委員】** 気象について、事業実施区域周辺では西よりの風が卓越しているということなので、できれば広域の気象を把握するという意味合いで、多治見のアメダスのデータを確認した方がよいと思う。

**【事務局】** 16ページの地域等の考え方として、小牧市、犬山市及び春日井市のうち、事業実施区域から4km以内の範囲を基本としているが、これは類似事例のシミュレーションを参考として、最大着地濃度出現距離が約0.5km～1.8kmの結果であったので、この範囲としている。しかしながら、ご指摘のとおり、少し広めなデータも確認するよう、事業者に伝えたい。

**【事業者】** 西風から影響を受けるのは多治見市というよりも、むしろ春日井市の方になる。春日井市の市境までは約2km弱の距離となるが、多治見市方面となると、背後地の山地を越えるという形になるので、影響は小さいと考えている。

**【竹中委員】** 147ページに公害苦情の現況があるが、現有施設に係るものはあるか。

**【事務局】** 現有施設に係る苦情は寄せられていないと聞いている。

**【内田委員】** 165ページの屋外拡散調査範囲について、大気質の専門ではないので素朴な質問だが、調査範囲が南側となってい

るのは、どういう考え方により決められているのか。また、現有施設を建設した時のトレーサーガスの調査結果はどのようなものか。

【事務局】 今回の屋外拡散調査については、156 ページに記載のとおりばい煙の排出に係る短期予測時において、地形影響として、山からの吹き下ろしの風による影響であるダウンドラフトを検討するために行われる調査である。

事業実施区域の北側は約 260m の山が存在し、南に向かってなだらかに傾斜しているが、特に冬場の風でダウンドラフトによる影響が強いと考えているため、これを考慮した調査が実施されるものである。

【事業者】 過去の拡散調査の結果から判断して、今回の調査範囲を決定している。過去の拡散調査については、北側の山からの吹き下ろしの風について、住居側の方について調査をし、主に南側の濃度が高かった。

【武田委員】 ばい煙の排出による自然環境の要素への影響については検討項目として必要ではないか。

【芹沢委員】 今までの同様なごみ処理施設と違って、北側に山が迫っているため、植物群落等へ影響を及ぼす可能性も考えられるので、基本的には調べる方向で検討いただくとよいと思う。

【事務局】 大気の拡散状況については、南側だけでなく、山側の方も予測が行われる。今後、どのような対応が可能か検討させていきたい。

【芹沢委員】 淡水産の貝類について、既存文献調査では挙がっていないそうだが、周りの調査範囲にため池が3つほどあるので、調査対象に加える方がよいと思う。また、植物関係ではコモウセンゴケ群落というのは、たぶんトウカイコモウセンゴケのことと思うが、ここには湧水湿地の群落があると思うので、注意して調査してほしい。

【事務局】 ご意見を十分検討させていきたいと思う。

【柳澤委員】 新施設ができたときに旧施設は処分すると思うが、処分についてどう考えているのか。全体の計画として考えた方がよいのではないか。

また、愛知県は猛禽類のよく確認されているところなの

で、猛禽類の調査を、別途加えておくとよいのではないか。

【事務局】 今回のアセスの中で解体・撤去のプロセスまでアセス対象に含めるかどうかというのは、この事業計画が現時点でどこまで熟度を持っているかということと関わってくると思う。事業者から聞いている話では、まだ解体については事業の制約の話もあって、事業計画には入ってこないと聞いているので、今回のアセス対象事業としては解体のプロセスまでは含まれないということになると思う。これからアセスを進めていく中で、状況変化等があれば対応が必要である。

猛禽類については、今回どのような対応ができるか検討していきたい。

【長谷川委員】 52 ページの動物相について、ヒミズモグラは日本にしかない落ち葉層に棲む固有種だが、近年減ってきており、典型的な要素の一つと考えた方がよいと思う。

また、環境センターは森と平地の際の部分にあるので、森へどう影響していくのか検討していただくとよいのではないか。できれば定量的な評価ができる検討ができればよいと思う。

景観については、施設の北側に遊歩道があるが、ここからの風景について、考えなくてもよいか。

【事務局】 普通種や森への影響については、生態系という観点から影響を見ていければと思う。種の選定については、現地調査結果を見つつ、またご意見をいただきたい。

【事業者】 今回の事業は既開発地に施設を建設するため、ふれあいの森等からの景観への影響は少ないと思うが、ご指摘の点は十分考慮して調査をする。

【丸山委員】 景観に関して、点的ではなく、幹線道路等からの線的あるいは面的な意味で、見える・見えないというものを確認してほしい。老人ホームなどからどう見えるのかは、とても重要なものだと思う。

【事務局】 景観については、施設の視認範囲と調査地点の関係を説明できるように検討させていきたい。アセスの中でも遠くから見える眺望景観と近くからの囲繞景観という考え方がある。

【岡村委員】 景観について、事業実施区域の北西にある本宮山の南に、東名高速からの景観が非常に悪い採石場がある。そのすぐ近くなので、遠くから見た景観についても、確認が必要である。

【岡本委員】 国指定文化財や景観資源については明治村の記載があるが、67ページの主な眺望点については記載がないのはなぜか。また、眺望点について、見えるということだけでなく、見えないことも重要なことなので、見えないということも明らかにした方がよい。

溶融スラグについて、公共工事での埋め戻し材、路盤材に使用するとあるが、今まで出来ていたものはどう使われているのか。また、これから出来るものはどの程度使われるのか。

【事務局】 明治村からは本施設は見えないが、見えないということの記載を検討させたい。

【事業者】 溶融スラグについて、現状では焼却灰の溶融は実施しておらず、現在は焼却灰を埋立処分している。将来については、現時点では具体的な計画は未定であるが、焼却灰を溶融し、できるだけ公共工事等へ積極的に利用したいと考えている。

【芹沢委員】 現施設の解体については、廃棄物が多量に出ると思われるので、もし一連の工事として行うのであれば、熟度を高めてアセスに含めるべきであり、もし含めないならば、当分の間は解体しないことを示す必要がある。準備書を作成する段階でどちらかに決定し、対応していただきたい。

また、住民意見で犬山・春日井の施設の話が出ているが、犬山市内の候補地及び春日井市の焼却施設はどこにあるのか。

また、温室効果ガスの問題として、ごみ焼却施設では多量の熱が生じると思うので、その熱を極力有効利用することが重要であり、近くの施設への温水供給などを考えるべきである。そのような取組によって、温室効果ガスの発生を極力相殺するようにしてもらいたい。

【事務局】 解体については、環境影響評価指針では、対象事業に係る工作物の撤去又は廃棄が行われることが予定されている

場合には、当該撤去又は廃棄を含めることとなっている。  
このような要件に該当するような事業計画であるか否かではないかと思う。

【黒田委員】 景観の評価については旧施設の存在を考慮するか否かによって影響は異なる。解体するか否かを検討し、アセスを行う必要がある。

【事業者】 熱利用については、現在も近くの温水プール及び福祉施設に温水を供給している。焼却施設内では発電を行い、熱利用を図っている。新施設についてもご指摘をふまえて余熱の有効利用を積極的に図りたいと考えているので、今後事業を進めていく中で反映させていく。

また、犬山市内の候補地については、2市2町（犬山市、江南市、大口町、扶桑町）のごみ処理施設の建設地を選定しようという中の一つの候補地として、犬山市内の候補地が入鹿池のすぐ南となっているが、正式に建設すると決まっているものではない。春日井市の施設は当組合の施設から東に約2kmの地点にある。

解体の時期については未定であるが、今後事業を進めていく中で具体的に含めるべきか否かについて検討していきたい。

【小池委員】 住民意見がいくつか提出されているが、処理量等が減り、施設が新しくなるので改良される点が多くあると思われ、その説明が不足しているように思う。その点を記載するとよいと思う。

【事務局】 パンフレットに現施設と今回の施設の諸元について記載があるように、排ガス処理設備が改良されることなどがあるため、今後、住民等に対しても現施設との比較が分かりやすい図書・資料づくりが必要と考える。

【事業者】 ごみ処理量については資源化の推進等により、近年減ってきているので、将来的な予測のもと処理能力を現施設より小さく計画している。施設の設計諸元については準備書段階で具体的な内容を示していきたい。

【成瀬会長】 住民の方々に説明する際、よい設備になることをよく伝えることが必要と思われるので、よろしく願いたい。

【竹中委員】 リサイクルセンターでアルミ回収も行うようになるため、

小牧市リサイクルプラザへのルートを通行する車両が増えるのではないか。

【事業者】 リサイクルセンターは現在も焼却施設に併設している粗大ごみ・不燃ごみの破碎施設である。小牧市リサイクルプラザは小牧市が運営する容器包装の選別を行う施設であり、組合環境センターへは選別の際に発生する夾雑物を運搬し、一日3台程度運行している。

【岡本委員】 景観の調査期間について、繁茂期と落葉期の年2回としているが、対象物が見えるか見えないかだけではなく、どのように見えるかということが大切なので、四季各季に調査を実施してほしい。

また、人と自然との触れ合い活動の場の調査期間について、春・秋の年2回としているが、この場所を利用している人の状況を把握した上で、調査時期を検討した方がよい。

【田中委員】 低周波音については、発生源から距離を置いた地点でも影響が出ることがあるため、周辺でやや離れたところがあり、特に配慮する必要がある高齢者施設で調査してはどうか。

【事務局】 事業者を検討させたい。

【内田委員】 住民意見に、排水を公共下水道に流してほしいとあるが、この地域は公共下水道の整備が予定されている地域か。

水生生物の調査地点については、水質調査地点と同じ地点を調べた方がよいのではないか。また、淡水貝類については調査対象に加えてほしい。

底生動物の調査時期は夏季と冬期の1回ずつとしているが3月に行っていただきたい。

【事務局】 下水道については、現時点で整備する計画がある地域ではないと聞いている。また、水生生物の調査については、ご指摘を踏まえて、反映できるよう事業者伝えていきたい。

【岡村委員】 生活排水については、焼却施設で蒸発させることにより、排出せずに済むのではないかと思うが、いかがか。

【事業者】 工場排水については施設内で再利用し、生活排水についても基本的には再利用するが、全休炉時には、生活排水を処理した後、大洞川に放流することを考えている。

【芹 沢 委 員】 方法書の関係地域については、春日井市、犬山市は含まれているのか。

【事 務 局】 春日井市及び犬山市も方法書関係市に含まれている。

- ・ 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書について審査させるため、成瀬会長の指名により、別紙２のとおり小牧岩倉ごみ処理施設部会を設置した。

イ その他

- ・ 事務局から、特にない旨の発言があった。

(3) 閉会



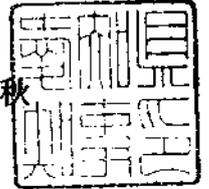
20環活第256-3号

平成21年1月15日

愛知県環境影響評価審査会

会長 成瀬 治 興 様

愛知県知事 神 田 真 秋



小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価  
方法書について（諮問）

このことについて、愛知県環境影響評価条例（平成10年愛知県条例第47号）第  
10条第4項の規定に基づき、環境の保全の見地からの意見を求めます。

担 当 環境部環境活動推進課

環境影響評価グループ

電 話 052-954-6211（ダイヤルイン）

## 愛知県環境影響評価審査会 小牧岩倉ごみ処理施設部会委員

委員名	所属等
今榮 東洋子	慶應義塾大学大学院理工学研究科教授
岩田 好一郎	中部大学工学部教授
内田 臣一	愛知工業大学工学部准教授
北田 敏廣	豊橋技術科学大学工学部教授
黒田 達朗	名古屋大学大学院環境学研究科教授
大東 憲二	大同工業大学工学部教授
立川 壮一	藤田保健衛生大学医学部教授
成瀬 治興	愛知工業大学工学部教授
堀越 哲美	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
丸山 宏	名城大学農学部教授
光田 恵	大同工業大学工学部准教授
吉村 いづみ	名古屋文化短期大学教授

(敬称略、五十音順)